

第2回 伊賀市の賑わい創出検討協議会会議概要

- ◆開催日時 平成27年11月24日(火)午後3時 30 分～午後5時 30 分
- ◆開催場所 伊賀市役所本庁第1委員会室
- ◆出席委員 田山委員、廣澤委員、西田委員、堀川委員、服部委員、八尾委員、風呂矢委員、
(名簿順) 前川委員、増永委員、宮本委員、奥委員、阿部委員、上田(功)委員、辻上委員、
高倉委員、上田(-)委員
- ◆事務局等 尾登産業振興部長、堀課長、百田副参事、山主査、藤森主任
(産業振興部中心市街地推進課)
- ◆説明者 堀課長、百田副参事、山主査(行政)
- ◆傍聴者 12名

◆議事概要

※前回欠席委員の紹介

1. あいさつ

田山会長

先日は4時間の長時間どうもありがとうございました。今日はなんとか2時間少しでまとめたいと思いますが皆様のご協力をよろしくお願いします。それから、今日初めてご出席いただいた方もいらっしゃると思いますので、前回の議事概要を添付していますから合間に読んでいただいて、皆さんの思いが色々入っているものですので、一応それを読んでいただいたうえでの議論とさせていただきますのでよろしくお願いします。

それでもう一度議論に入るまでに前回資料4の中で協議会の流れを作成してあります。この中で今日は第2回ということになりますので、この2回の内容に沿った形で進めていきたいと思えます。本当に限られた時間で今のところ6回の予定ですので、都度々々前へ進んでいかなければならない。それから、これは事務手続き上ですが、皆様の思いはその都度この場で述べておいていただいて、この場でのこの会の結論は直ぐに出ないことも多々あると思えますが、あとで事務局がまとめますので、それを次の回にはある程度集約した形の問題提起という形でさらに議論を深めていくという形を取りたいと思えます。進行上、各委員様の思いは是非述べておいていただきたいということをお願いします。

それでは今日はよろしくお願いします。

※会議成立報告等

尾登部長

協議会委員20名の内、16名出席のため会議は成立していることを報告します。

会議は公開とし、議事概要作成のため録音させていただきますのでご了承いただきますようよろしくお願いします。

続きまして配付資料の確認をさせていただきます。

各委員

～自己紹介～

百田副参事

～配布資料の確認～

2. 前回議事録の確認

山主査 本会議概要はホームページ上での公開を予定しています。
修正箇所があればご指摘いただきたいのでよろしくお願いします。

3. 協議事項

1) 関連計画等(追加・補足)

百田副参事 ～資料2-1から2-7に基づき説明～

田山会長 ありがとうございます。

みなさん、要所、要所はご覧頂いたと思いますが、一応この内容について確認しておきたいということもあるかと思えます。委員のみなさん、確認ということで、挙手にてお願いしたいと思えます。

堀川委員 資料の2-3の中心市街地活性化基本計画素案の5頁 中心市街地の区域について、第1期計画と同じと考えてよろしいですか。

百田副参事 はい。

堀川委員 6頁 小売業の年間販売額について、第1期と同じく飲食、サービス業は含まないということでしょうか。

百田副参事 はい。この時点での素案ということでご理解いただきたいと思えます。

堀川委員 物品販売だけではなくサービス業を含んだトータルでの商業の数字を押えて置いてください。なぜかという、商工会議所構成員を見ても、最近サービス業がほとんどですので、時代の流れがそっちに移っていますので。

次に、8頁 街中居住の推進のための事業ですが、第1期はどうもハイトピアが目に見えてくると、この辺がトーンダウンして街中居住施策が不完全で終わった。第2期計画は、街中居住の促進が中活の本質的なところなので、しっかり押えていただきたいと思えます。

それと、17頁 まちのポジショニングということで、伊賀は散策が楽しい、何度も訪れたいまちということですが、具体的な都市名、実はこのまちをビジネスモデルとしているというような、明確なところはございませんか。

百田副参事 伊賀は、伊勢や京都のような誰もが知っているような観光地ではございませんので、そういったことではなく、何度も訪れたいまちを目指しているということで、具体的な都市名については申し上げられないです。

田山会長 ただ今の事務局よりの説明で、協議会で理解しておくべき情報、若者の情報、識者のお話、行政の積み重ねてきたいろんなことでの前提で議論を進めさせていただきたいということですので、よろしくお願いします。

私、細かいことですが、一つだけありまして、資料2-1の伊賀市総合計画 81頁 主な事業(観光戦略課)として「東大和西三重観光連盟」とありますが、誰も知らないと思うんですけど、何となく室生寺、長谷寺、宇陀の方とくっついて何かやるのかとイメージ湧きますけども、実はこれよりも、市レベル、市長さん同士交流もされていると聞いていますので、伊賀・甲賀の連携の方がプライオリティは高いのではないのでしょうかね。

もう一つは、ここには書いていませんけども、市の企画部門が知恵を絞ってほしい

んですが、我々の委員会に対して三重大学が応援していただいているんですが、こういう機能というのは使っていけるわけですから、いろんな意味での大学の知恵というのは借りられるわけですから、まちづくりという観点で、いろいろなところで大学の先生が学外へ出て伊賀のことをしていただいています。また、忍者のことを学問にしようと三重連携フィールドで発信しようと、いろいろやっていただいていますので、大いに協力者であるということをご認識いただければと思います。

辻上委員

前回の資料、総合計画概要版の最後の三つの分野の柱の後に計画の推進というのがございまして、この中に広域的な連携のまとめがございまして、甲賀、亀山とかイコカ連携と言っておりますが、そういった枠組みを含めて取組んでいるということでご理解いただきたいと思っております。大学との連携についても含めて記載がございまして、絞って今回整理をさせていただきましたので、他にも関連性のある記述があるということでご理解いただきたいと思っております。

田山会長

事務局で絞っていただくときは、プライオリティの高いものから入れていただくようにお願いします。

それでは、ただ今の関連計画を念頭に置いて、中心市街地のグランドデザインの策定を行っていくことといたします。

2)グランドデザイン基本方針案

堀課長

～資料3-1に基づき説明～

田山会長

はい、ありがとうございました。

特に前回ご出席いただいた委員の方にご意見伺いたいんですが、こういう意見内容で概ね良かったんかとか、あるいはここちょっと補ってほしいとかございましたら挙手にてお願いしたいんですが。廣澤委員、観光面からはよろしいですか。

廣澤委員

先日、中町商店街の若手とちょっと話をしたんですが、観光では自分たちの商売にメリットがないというような意見が返ってまいりました。それじゃ、もう、街中の観光は考えんでもいいのかな、という形にも聞こえたんですけども、僕は実際、街は空き家が増えてきておまして、空き家を埋めんのにどうしたらええんやという一つの中で、魅力のある街やったらおそらく人が住み着いてくれる、あるいは商売してくれるというような考えを持ってまして、そのために、観光客でもいいから街に出ていただきたいな、というようなことがあったもんですから、観光だけにという意味じゃないんですけど、ウエートはやはり五分五分ぐらいで、これから新しいまちといいますか、これからの街に人が集うというようなことがちょっと前向きに無いもんですから、何かこう画期的なもの、どっちかに絞っていった方が良さそうな気がします。

田山会長

ありがとうございました。

先ほどの事務局の説明で高校生のアンケートがありましたけど、あれを見ているとちょっと驚きですね。やはり、大人にならないと文化的な部分はなく、その前に街が賑やかになって欲しいというのが、まあ若い子はそうかもわからないですけど、そういう部分が結構あると。

それでは、西田委員、大体全体的にこの意見まとめでよろしゅうございませうか。補

足的に意見ございましたら。

西田委員

前回のときにも申し上げたんですけど、思いますに、伊賀市全体としてまとまるために、核が必要であると、そういう意味で、自分が芭蕉に関係していることもあります。芭蕉を中心とした文化的な都市というものを先ず芯に置いて、その上で考えていくというのが一番まとまりやすいのではないかという意見をもっております。

田山会長

ありがとうございました。

例えば図書館も大きな候補に挙がっているわけですけど、これは伊賀市民的に利用できる図書館。例えば居住地が少し離れていても、通勤通学が街中近くにあれば、当然利用出来るわけですから、そういうことも含めて視野に入れて、いろんな立地も含めて考えていかなければならないだろうと。そのために場所の整理も必要だと思います。

先般、宮本委員ご意見提示いただいた部分も全体的には反映されているのではないかなと思うんですが、街中だけの話ではなくて、ここが機能していくことで伊賀市全体が発展していくと、いうことを大前提としたプロジェクトであるということは副市長からお話が前回ございました。そういうことで、みなさんご総意いただいていると思いますので、そのベースで進めさせていただきたい。また、そのつもりで事務局もまとめていただいたと思いますので。

それでは、続きまして、資料3-2グランドデザイン方針案について事務局説明をお願いします。

堀課長

～資料3-2に基づき説明～

田山会長

ありがとうございました。

大体こういう文章に要約されてくるのかなということでございますが。まあ、特に言葉とすれば、「公共施設再配置」と書いてますが、公共施設だけと決めたわけではないですから、公益かもしれませんし、観光施設的なイメージも施設としては当然この協議会で検討されると思いますので、そういうものを総称して公共施設でよろしいですかね。そういうご理解で賜りたいと思います。方向性としてはよろしゅうございますか。

それでは、ご理解いただいたということで、次に進めさせていただきたいと思いません。

3)賑わい創出に係る検討

堀課長

～資料4から6に基づき説明～(抜粋)

資料5の項目で説明します。市街地が果たしてきた役割ということで事務局が3つの柱でまとめております。まず一つとして、地域コミュニティーの中心であった。地域の核として地域の歴史や文化を担ってきた場所であるという役割を果たしてきた。また、地域の顔であるともよく言われます。人々が暮らし、交流してきた歴史、伝統、文化や社会基盤を背景に、地域の顔として、また、商業やサービス等の多様な都市機能が集積し、賑わいの中心の受け皿を担ってきた場所でありました。もう一つとして地域として地域資源や資産の情報発信でありました。中心市街地は公共交通の結

節点であり、その周辺も含めた地域全体の情報が集まると共に、訪れた人々に対して街なみや景観、佇まい、伝統、文化など情報として発信してきた場所でもあります。こういうところを受けまして、今後、中心市街地がどのように果たしていくか、果たしていく機能をどのように作っていくかというのをご議論いただきたいと思っています。

資料6-1と資料6-2、続けまして資料7をご覧頂きながら聞いていただきたいと思います。まず資料6-1は前回も配布しました市街地を含む広域の図面となっています。赤色が主として観光の用途の施設。青色が公共施設、緑色が商業施設として表記しています。点線の円の意味ですが、南庁舎を中心に500m、1km、2kmの同心円を表記しました。一定の距離の中にどの程度施設が集積されているかがご覧いただけるかと思っています。

続いて資料6-2をご覧ください。南庁舎から半径500m圏内の拡大図を特出したものですが、色分けにつきましては資料6-1と同じとなっています。先日上野商工会議所の西尾委員長様からご説明いただきました『感動のまち伊賀上野』で活用提案をいただいた施設とか、新芭蕉翁記念館事業計画検討委員会答申で移転候補地となった3箇所、また、伊賀市がこれまで議会や住民説明会で活用提案してきました施設等につきましては提案内容を囲みで明記しています。ランドデザインの基本方針に基づき、市街地の機能やゾーニング、また、施設の配置や有効活用などを検討いただけるような資料として資料5とも連動させながらご確認いただけたらと思います。資料の説明は以上でございます。

田山会長

中心市街地が果たしてきた役割についてはもういいと思うんですよね、大体今までの状況ですから。資料6-2の、例えば桃青中跡のところに、忍者道場アートボックス、これは感動のまち伊賀上野のご提案ですか。これをもうちょっと説明していただけませんか。アートボックス街とかどんな感じなのかイメージがちょっと分からないので。資料を見ながらだと大変なので、何にも分かってないわけじゃないので、大体イメージだけで。

堀課長

まず、このアートボックス街というのは、芸術家との交流も可能にする発信の場ということで、若い芸術家さん達がここで集まって自己主張もしながら、また興味のある方がここに集うという形になっております。後は、例えば、感動のまち伊賀上野の提案されたドライブスルー図書館は、郊外と言うか、来易いところということでご提案いただいております。

また、芭蕉翁記念館検討委員会答申の記念館候補地におけるA、B、Cの記載は優先順位ではなく、答申における表現でそのまま使ったものです。

田山会長

この前のページは、ここから500m、1km云々説明していただきましたが、これで大体のものはカバーされているわけですね。

堀課長

はい。

田山会長

ここから議論していただきたいのですが、まず、事務局から説明した資料等を踏まえまして、市街地が今後果たすべき役割ということで、前回も多少議論がありました。皆さんのご意見で、こういう市街地であるべきだろうということを順番に上田(一)

委員さんからでよろしいですか。ご自身の夢も含めて簡単にお願ひしたいと思ひます。

上田(一)委員 基本的にはその住民が豊かに暮らせるまちづくり、これが基本的にある。そこに観光とか公用とかが出てくるが、観光重視とかではなく、観光重視ではある程度観光に関係する人だけが潤うというようなことではなしに、そこに住む住民全てが豊かな生活を送れるようなまちづくりをする必要があるのではないのでしょうか。高齢化社会や人口減少などの大きな課題に財政難が重なっていて、これらをクリアしながらのまちづくりとなるので、昔のような賑わいをただ取り戻せばいいという簡単なものではなく、いまの時代に合った新たなまちづくりをする必要がある。最終的にランドデザインを描くとすると、すぐ観光、或いは図書館、芭蕉が候補になるかと思ひますが、プラス住民が住み易いまちになることを。

田山会長 市民の憩いの場があるとか、それを具体的な言葉で上田委員のご意見として。

上田(一)委員 若者が住むということが将来の人口減少の歯止めになると思われるので、若者たちがこの街に住んでみたいとなるような。

田山会長 若者の集客施設、ショッピングができるような、人が集まるような。

上田(一)委員 そういうのができたらいいなと思ひます。

田山会長 はい、ありがとうございます。では高倉委員お願ひします。

高倉委員 観光の問題、或いは地域の住民の住み心地の問題、この二つのものを前回の議事録にはバランスという表現をしたようですけど、融合だと思ひます。融合させることが大事だと思ひます。地域住民の住み心地の良さ、地域住民の郷土への思い、それがきちんと外へのサービス、外から来る人の満足度、これを高めていく。そのベクトルをはっきりと出していくということが一つ。もう一つは、資料の地図を見せていただいて、さすが上野だなと思ひました。たくさんの施設があります。私が携わっている他の地域と比べるとさすが上野だなと思ひます。でも大事なことは、このそれぞれの施設をどうコーディネートするかということ。バラバラにそれぞれの施設が機能しているという状況から、抜け出していく。それぞれの施設が全体となって伊賀市の住み心地も、伊賀市の外の人たちからの魅力も作り出していく。その工夫をしなければならぬのではないかと考えました。そうなった時に具体的にここで我々はどういう施設をどんな風にどこへということ。それをきちんと考えていかなければならない。それとそれぞれの施設の個性やできることをある程度明確にしていかないと、幻想を抱いてしまう可能性はあるかと思ひます。そういうことが無いように、そしてそれぞれの施設が協働できるような、一緒になって伊賀市の魅力、住んでいる人も外から来た人も、そういう視点で配置も役割も考えていきたいと思ひます。

田山会長 大変貴重なご意見をありがとうございます。副市長は後でまとめたお話をうかがいまして、阿部委員さんよろしくお願ひします。

阿部委員 私は今回配布された資料を見せていただいて非常にためになったのは、市長、副市長さんが各企業を訪問されたことも書いてありましたし、子育て世代のお母さん方に色々意見を聞かれたり、中学校、高校生の意見が書いてあります。これを読ませ

ていただいて流石だなと思ったのは、公共交通道路の整備が本当に伊賀市を、色んなところから入れるように名阪国道や近鉄、JRがあるにもかかわらず、なにか盲腸のようになってしまっていて通りが悪い。まずは公共交通の充実をさせないと市街地の賑わいは取り戻せないのではないかと思ったのが一つ。それから観光協会の廣澤会長がおっしゃったが、空き店舗の活用が十分なされてないので、市街地を造るにしても中心市街地の賑わいは取り戻せないのではないか。京都と比べると観光地としての規模は全然違うが、京都では空き店舗を利用して色々なのが入ってきている。そこに京都と伊賀の魅力の違いがあるのかもしれないが、やはり空き店舗を活用して街を充実させる。それと、アンケートに書いてあったが、伊賀のいい所は自然だと思う。自然の魅力があって、住み良い、住み続けたいという声結構アンケートの中で多かった。やはり自然を利用して住み続けさせるためには、普段の生活が安定して、特に仕事関係、市長さん副市長さんが各企業を回っていただいたのですが、伊賀の中には事務系の企業が少ない。昔は工場でも伊賀の市民から従業員を採用していたが、最近ほとんどそれがなくなってきている。中高生のアンケートでは、自分の行きたい部門の学校が無くなって行けなくなったという意見もあったように、学校の統合でも得意な部分だけは残すような形の統合が必要になってくるのではないか。そうすると子どもさんたちもUターンや伊賀の企業に勤めることもできる。最終的には公共的な交通道路網の整備も必要だし、教育・子育て環境も必要ですし、周りから賑わいを作る土台となる基盤をきっちり整備させて、最終的に中心市街地の賑わいをどう取り戻すかということに持っていけないと、先ほども言われた観光を中心に賑わいを考えても、結局、砂上の楼閣となって長期的なビジョンにならないのではないか。だからこの検討協議会で話すことは、今回多くの資料を出していただいたが、特に自由意見関係の部分を読んで、中学校高校生の意見だからと軽んじず、新たな意見としていい意見を探し出していくことも大事ではないかと思います。

田山会長

はい、どうもありがとうございました。行政的には公共交通含め、色んな努力をさせていただいていますが、最近では予算がないのか、幹線国道でも一部道路事情が悪いところもまだありますので、これはご指摘のとおりだと思います。この辺のことが、市街地が発展していくためには必要なことというご指摘でございます。

続きまして奥委員さんよろしくお願ひします。

奥委員

実は、私は大山田の千戸という一番上野に近いところに住んでいるのですが、小さい時は買い物で上野に行くと、東京か大阪に行くような感じでした。それから随分時代は変わりました。その中では特に資料3に地域間連携を踏まえた市街地の活性化に関する事云々と書いていただいているが、いわゆる市街地が元気になれば郡部も元気になってくだろう、郡部が元気になったら市街地も元気になるだろう、ということで、私は大山田で郡部ですので、市街地の活性化に伴って郡部がどうしたら元気になるのかということも検討していく必要があると思う。それと、例えば、若者が自由に集まれる東屋みたいな施設、そして高齢者も集まれる場所、それらが求められる状況になってくるのではなかろうか、そういうことを含めて考えていく必要があるのではな

いか。この市街地が元気になってくる中で、いかにして郡部がついていくか、或いはどんな波及効果があるのか、ということについては、大山田の皆さんも関心が高いため、この検討委員会で一定の方向性を示していければいいと思う。

田山会長 大山田を見ていると観光に力を入れられているし、例えば芭蕉翁記念館があれば一緒に連携したような形で、伊賀全体が特化したもうちょっとレベルの高い観光なんかも展開できると思います。また、工業団地も結構増えましたし、市民の動き方も大きくなってきていると思う。そういう意味では図書館が遅くまで開いていけば、そういうところに行けますし、大山田に置くというのは全市的にはなかなか難しいと思いますが、そういう機能を持てるようなということだと思います。ありがとうございました。

続きまして宮本委員さんお願いします。

宮本委員 まず、ここに住んでおられる人が、本当に住みよいというものをこの地域の中でそれぞれ地理的条件が違うと思いますが、その中、そういった意見が十分反映できるような市街地になればいいと思います。

田山会長 はい、ありがとうございました。まずは住民が大事だというご指摘で、この線に沿って議論していくことは間違いございません。それでは増永委員さんよろしくお願いします。

増永委員 私も郡部の出身ですので、やはり中心だけが賑わって郡部が廃れていくということではダメだと思いますので、仕事とか利用し易い交通網など、そういうものを確立した計画を立てていかないと、やはり中心だけになってしまうので、バランスの取れた市全体に賑わいを作り出せるような計画にしないとだめだという思いです。

田山会長 はい、ありがとうございました。

上田(功)委員 まず確認させていただきますが、資料6-2で、桃青中学校跡は水道タンクが来るというお話が前回あったと思いますが、決定事項ではなく、まだ、忍者道場であったりアートボックス街や芭蕉翁記念館が建つ可能性がある、若しくは併設が可能である、という形でよろしいのでしょうか。

田山会長 事務局から、副市長から説明してください。

辻上委員 実際残された敷地と校舎等の広さと水道タンクを比べましたら、当然水道タンクは小さいので、残された敷地はあるにはありますが、校舎等には耐震性がありませんので、基本的には壊していく予定ではあります。例えば耐震化までして使っていくことの費用対効果があるかどうかは検討の余地はゼロではないのでしょうけど、大きな方向性としてはそのように決めています。水道タンクについては、他には立地できる適当な場所が無いということも含めて、ここには立地していくということは市の方針としては決めているという状況です。

田山会長 ちょっと補足すると、可能性としては全く無いわけではないので、こっちを立てればこっちが立たずがあるかもしれませんが、優先順位高い方からやってもいいよね、ということで選択肢としては残しておくというふうにご理解ください。

上田(功)委員 ありがとうございます。

僕の考えている賑わい創出は、分けて考えていまして、外部からの賑わいという部

分と、実際伊賀市に住んでいる内部の人間の賑わいという形で、二つ分けて考えていますが、市街地という部分に関して言えば、先ほどから調和であったりバランスというお話もでていますが、実際このような図にして見てみると、いわゆる観光客がよく来られる施設が本当にたくさん詰まっているということで、市街地に関しては観光に特化してもいいのではないかと思います。空き店舗に関してのお話もあったが、商売をするという意味でいえば、店を出して儲かればどんどん埋まってくると思うのですが、これをどう実現していくかということが、多分その賑わいであったり、観光客の流れであったりという部分になってくると思いますので、なかなか軸を決めないと考えていき方というのは難しいのではないかと思いますから、市街地に関しては観光を軸に置いてもいいのかなと思います。以上です。

田山会長
前川委員

はい、ありがとうございます。前川委員さんお願いします。

僕は 2 点ほどお伺いしたいのですが、一点は、私たちが住んでいるのは郡部ですので、なかなか人は集まらないと、中でも郡部は郡部なりに色々賑わい(の取り組み)をさせてもらっています。特に、今月の 29 日の伊賀市と志摩市がするイベントがありますが、すでにいがまちでは、南伊勢町の観光地と提携を結びまして、いがまちで行われる展覧会に海の幸を提供してもらうということで観光面としての交流をやっております。2 つ目には、交通アクセスですが、市街地に人を集めるということであれば、郡部からも直接の公共交通も必要であろうと思っております。交通弱者といいますが、運転できないお年寄りや子どもたちなどは、なかなか中心市街地には出てこれないということがありますので、中心市街地の賑わいを起こすのであれば、公共交通のことについてもこの中で検討していただきたいと思います。

田山会長

はい、ありがとうございます。大変わかりやすいご説明で、これは議事録には必ず書いておいてほしいのですが、やはり交通弱者というか、色々な人に来ていただくためにはアクセスがなければどうしようもないということ、ありますよね、これも踏まえて考えなくてはいけないということでございます。どうもありがとうございました。続けて風呂矢委員よろしくをお願いします。

風呂矢委員

南部自治協の風呂矢です。この委員会の目標であります賑わい創出ということですが、この市街地が果たしてきた役割ですね、これについては、今まで十分時々の歴史的なものもありますし、工夫もされてきた訳ですけども、私も感じることは、まずこのような委員会とかたくさんあるんですよ、賑わい創出、それからまちづくりとかたくさんありながら、この紙ではたくさん立派なものができるんですが、それをどう行動していくかということは大きな課題だと思っています。まず言えることは、この市街地が元氣じゃないと先ほど来言われている郡部のほうも活性化しないと、これは間違いなく、そうだと思います。そして、まず何が大事かという人を集めるということですね。にぎわいフェスタ、忍者フェスタ、天神さんのお祭、何万人というお客さんが一堂に集まってくる、これは外部から見るとすごい街ですよ。私自身も知り合いを時々招いたりするのですが、「すごい街ですね、いい街ですね、城下町でいいところもたくさんありますし。」ということで、私自身がそのお客さんをおもてなしする時に、どういう順番でお

もてなししたらいいかということを中心に考える訳です。そうしていると自ずと行動というのできる。こうしたやり方は人それぞれ違うと思いますが、そういったことを、我々も住民ですが、住民がにぎわいに関しての意識を持たないといけないかなど。観光を重視するという話ではなくて、われわれ自身、住んでいる者がおもてなしの考え方、やり方、そういった工夫をしていくということが大事かなと思っております。それと先ほども言いましたように仕掛けというのが一番大事でありまして、現在はメディアというものがかなり進んでいますから、スマホなりパソコン等々、ホームページ等の利用、Wi-Fiの設備をしっかりと持っていきなり、どこへ行っても調べたら直ぐにわかるように、若い人は調べたら直ぐに検索する訳ですよね、そういった機能もしっかりしていけば自ずと人も集まってくるのかなということで、私は今の時代に合った色々な成功例を基にこれからも中心市街地を賑わいに結び付けていくと、そういう方法が一番大事かなと思っております。

田山会長 はい、貴重なご意見ありがとうございます。それでは八尾委員よろしく申し上げます。

八尾委員 西部地区自治協会長の八尾です。皆さん方に私のこの場所を活性化していただくのに、知識を持って帰ります。何を言っても皆さんのお力を借りずにはできないということは一つで、私の町の方でも本日夜7時から第1回の賑わい創出委員会を開催しまして、これらを基に新しいまちづくりをもう一度、平成のまちから400年経って、よかったと言われるようにしたいと思っております、いろいろな方のご意見を今日は聞かせていただいたのですが、私の口からどうのこうの言うのは控えさせていただきたい。ここには私の地域の大御所であります廣澤観光協会長もおられますし、彼らとも一緒になってこの町をどうするかということに取り組んでまいりたいと思っておりますので、400年続いた町を、もう一度400年続く町々にしていきたいというのが私の念願でございますので、皆さんの意見を聞かせていただきましたので、これらを基に、新しいプランニングをしながら前に進んでいきたい、かように思っていることです。

田山会長 はい、ありがとうございました。お待たせしました服部委員よろしく申し上げます。

服部委員 東部の服部でございます。私は中心市街地というのは、資料6-2の点線で囲みである範囲内をいうのかなと解釈をしている訳ですが、ここ10年20年前位から、だいぶ状況が変わってきているように思います。ということは、私も生まれ育ったのはこの中心市街地の中ですので、その頃には銀座通り、東之立町という名称もあつたんですが、セットバックする時も、それはそこが賑わう、それから商業が繁栄するようになる、という意味からしたと思うんですけど、夕方7時くらいになったら閑古鳥と言いますか、非常に人が少なくなって、逆に私の地域に入るのですが、北平野、城北の辺りが賑わうような若い人の集ってくるようなことになってきているのと違うかと懸念しております。上野祭ではうちの家でもだんじりが毎年代わる代わる休憩所として使っていただいておりますし、そんなことでお祭は単発のイベントということではこの範囲内ではないかと思うのですが、その日だけではちょっとね、一年間常にある程度の賑わいということであれば、若い人が残り、町のどこへ行ってもある程度人がいるというこ

とでない、夕方に町筋の店は殆ど閉まってしまうし、だんだん空き家とか駐車場が増えてきて、賑わいを検討するのがいいのかどうかというふうに思いますし、ハイピアが建設される時も色々考えさせてもらって、それが出来たからには若い人に集まっていたいて、文化の中心として活用できるようにということで、今見ていると高校生などがたくさん集まっていたいてその意味ではよかったとは思いますが、やっぱりそこだけでは困りますので、各商売のお店が減ってきたり無くなってしまうと賑わいも無くなるし、それからこの地図で見ると、ヤオヒコさんは市街地で高齢者が一番行き易いところとして、やっぱりこういう店が大事ではないかと思しますので、そういう面も考えながらやっていってもらったらと思いますのでよろしくお願いします。

田山会長

ハイピアは結果として、今のところは成果として出ていると思いますし、信用金庫さんの移られた跡地の前の道路も整備されますし、北側がこれでできますと、より相乗効果というのも期待できると思いますし、そういうことも踏まえてやっていきたいと思えます。貴重なご意見ありがとうございました。では堀川さんお願いします。

堀川委員

意見を申し上げる前に一点お聞きしたいことがあります、水道タンクの移転なんです。移転コストと現地の活用について教えて頂きたい。

辻上委員

特に基本設計を組んでいる訳ではないので、正確な移転費用の算出はしておりません。3基のタンクの移転後には、史跡でありますので、新たに何か造ることはできません。基本的には復元作業がされていくのかな、という認識をしています。

堀川委員

それでは、意見ですが、私、従来から中活の責任者ということで、いわゆる賑わいとは、いかに定住者を増やすのかということと考えておまして、とにかく区域内に中核住民をいかに誘致するか。具体的な子育て世帯、シングルマザーの育児のしやすいまちづくりということで。なかなか何もインセンティブがなければまちの中に入ってこない。財政的な事もあるので重点的にエリアを決めて、市が単独で出来るようなインセンティブ、住民誘致について全国的に高齢化、人口が減るなかでインセンティブについて考えてほしい。

また、安心安全なまちづくりというところで、ハザードマップや国交省など関連のデータを基に公共施設の配置が適切かどうか。不安に思っていることがありますのが、私、恵美須町に住んでおまして、避難場所が西小学校に指定されておりますが、庁舎周辺が液状化の心配があることから、無事に避難場所までたどり着けるのか危惧を持ちながら生活しております。地面の上の施設のことばかりではなしに、下水道も含めて地面の下の基盤整備っていうのも、見てよし、住んでよしのまちづくりの中に入るのかなと思っておりますので、この辺の改善もお願いしたい。

先ほどから空き店舗、空き家の話もでていますが、以前より通販などの無店舗販売が増えている、従前の店舗販売がどこまで必要かという時代を向えています。あえて空き店舗を活用する場合には、シェアリングなどで店舗コストをいかに軽減できるかなども踏まえ、条例対応もできるようご検討いただきたい。

田山会長

ありがとうございました。定住化促進はいいアイデアだと思います。

西田委員

先ず驚いているんですが、芭蕉翁記念館検討委員会の中でダメだと聞いていた

芭蕉翁記念館を建てる候補地に桃青中学校跡地が候補地として残っていることが、今、はじめて聞きました。候補地として検討の余地があるのはありがたいと思っています。

何度も言って申し訳ないが、賑わい創生という取組が旧市内を中心とした個々のものだけでなしに、伊賀は戦後、文化都市というのを核に置いてやってきたわけですから、地域の特性を活かすということにおいても、多くの歴史的なものを活用して、みんなが連携して一つのを創り上げるということでやっていただきたい。

田山会長

はい、ありがとうございました。

考え方として、文化というのはわがまちの誇りであります、観光資源としての文化と市民生活としてのものとのミスマッチがあるのは多少否めない部分もあります。若い世代のアンケート結果を見れば、にぎわいのショップなど具体的に書いてあったりもします。自然がきれいという点は全世代共通している訳ですが、世代によって差もある。西田委員がおっしゃった文化というものを各世代に落とせる形にするのが一番いいのかなと思います。

廣澤委員

まず、グランドデザインを何故せないかんのかということですが。だんじり会館、郵便局、図書館にしても、昔からの建物は、あこが空いたから、国の補助金がもらえるから、というように配置の計画性がなく建てられたものなんですよ。図書館、芭蕉翁記念館のことがあって、今ここにきてやっとグランドデザインをしようということになった。

上田(功)委員が先ほどおっしゃったように、地域住民型の賑わいか、観光客をいれた賑わいか、というなかで、商店街に聞くと、観光に特化しないというか、住民重視のリピーター向けの街にしてほしいという考えを持たれている。今まで上野城公園の観光客を街中へという考え方で観光をやってきたが、果たして良いのかと考える。街中には赤井邸などのたくさんの施設があり、うまく活かされていないように思う。何かと結びつけていかないといけない。からくり館や体験道場、忍者の騙し絵なども町によって考えられている。住民のうるおいであれば、図書館を街中へもってきたり、観光的にするのであれば記念館やろ、という考えが町によっていろいろある。住民が望まないのに観光客重視のことをするのは返って巧くないんじゃないかと思っています。

田山会長

ご指摘のなかで、ゾーニング的なことはあまり考えなくてもいいんじゃないかということでしょうか？観光施設は街中に点在しているんだから、混在していてもいいんじゃないかと？

廣澤委員

最近まちの意見を聞くと、街中の人あまり観光客がたくさん来てくれるのを望んでいないんじゃないかと、それよりも、市民が集える場所にしてほしいというように自分としては受けた。

最後に、もう一つ。最近観光協会は郡部と合併しましたので、忍者、芭蕉の事業で統一した事業をして、それぞれの地域を引っ張っていこうと考えています。市街地と郡部を事業で繋いでいく。例えば、大山田では、体験を交ぜながら、さるびのを交ぜながら、物産も売りながら一つのコマを作っていく忍者のスタイル。例えば、ここで

は滝の修練できますよ、忍者道場的なのがありますよというような、うまく自然を利用しながら作っていく感じです。地域の物産も売れるような形で連携していったらどうか、という考えです。

田山会長 物産ということが出ましたので、この中心市街地エリアで物産を売ったら売れますかね？

廣澤委員 問題になっているのが、全部の物産がそろうというのは、だんじり会館しかない。だんじり会館の利用度は意外と少なく、バス置き場でもないし、重要なのは立地なんです。この前、桃青を駐車場に忍者フェスタやった日は一日 100 万円売ったんですね。立地なんです。市長と話していて、駅前に物産集結したらええやないかと。だんじり会館からやめてそっちに行ったらええやないかと。

田山会長 郡部と合併され、市とも連携されていると思いますが、次回にでも、観光協会の構想を発表していただけたら、観光に関する我々の理解度も高まるので聞いておきたい。

堀川委員 ちょっと、物産のことでよろしいですか。いままで中活計画の重点区域を観光客に周遊していただいて、いろんなお店を周って頂く前提で来たんですが、2 期計画ではコロッと。

田山会長 ここでは戦術論はキリがないので、戦略的に観光の話聞いてから個々にやっていきたいのでご理解いただきたい。

それでは、市街地の果たすべき役割、施設と機能、そして必要な機能について大体議論していただきました。最後に副市長にまとめを兼ねてご意見を賜りたいと思います。

辻上委員 大事なのは今まで出来ていなかった賑わいに必要なこのエリアにおける全体としての施設と機能の議論についてご意見が集約されることと考えています。大事なことは4, 5年間という短い期間でまちづくりについての全てのことが出来るとは思っておりませんので、また、行政だけで出来る訳でもありませんので、10 年、20 年という長いスパンで物事を見ながら、まちづくりを考えていくために必要な施設の機能、配置について皆さんに考えて頂きたいと思います。

田山会長 えっ！そんなに時間がかかるんですか？(特例債の期限のこともあって)図書館は直ぐに作らないといけないのではないですか？

辻上委員 まちづくりは短期間で全ての整備ができる訳ではないので、そういう意味である程度長期的な目で見ながら議論していかなければならないということを先ず申し上げます。

ただし、急がなければならないものもある訳で、例えば、今おっしゃられた図書館については蔵書が目一杯で十分な機能が果たせていないという状況がありますから、これは早急に着手していきたい。それが可能なプランニングが必要ではないのかなというのがあります。もう一つ大事なことは、ここを賑わいの創出のエリアにしていこうということで庁舎の移転が決定されてきましたが、賑わいという観光という部分に光が当たっておりますが、人口減少下にあっては当然マーケティングをより外部に求めて

いくという必要はありますが、ベースとなるものは日常的な賑わいですよ。これがあるって始めて、先ほど平日はどうするんかとか、夜はどうするんかという問題もございましたけども、両方の融合が不可欠ではないのかと。これは中心市街地活性化のときにも十分議論されていたと記憶しております。行政の案はそういった部分を含めて狙っていたということを申し上げておきます。

田山会長

ありがとうございました。

合併特例債が延長されたから、時間があつた訳で、本来無かつたらもう既に決めていないといけないことがたくさんあつたと思うんですけど、それでは図書館以外は、合併特例債を原資としていない訳ですね。

辻上委員

全てが特例債を原資とする訳にはいかないが、特例債は期間が限られているので特例債でないと出来ない事業の優先順位が高くなるでしょう。

田山会長

それは分かりますが、そのんびりしていても、また時代が変わってしまいます(笑)。

辻上委員

ですので、今年度中に一定の方向性を出していただきたいと思います。

廣澤会長

私は、芭蕉翁記念館は特例債を使わなあかんと思っています。場所がまだ決まっていないので、この庁舎問題を早く解決しないといけないと思いますが、芭蕉で綴っていく動線の中に記念館があつた方がいいと思うのがランドデザインやと思います。記念館の候補地3箇所は全て市の所有する土地で、民間の土地については探していないんです。例えば、銀座の駐車場なんかは、あのぐらいのスペースは巧いことしたら蓑虫庵と繋がるスペースなんです。あれ、ええやないかとなってくるんですが、市の持つ土地しか探していないからあの3候補地になるんです。全体含め期間内にできるのであれば、早くそういう場所を探して、特例債を使った方が安くいくと思うんですけどね。

田山会長

今日は、これで時間になりましたが、ご意見を頂くことで新しい問題点も出てきますし、私もあれっていうことがでできますので、そういった中で理解を深めていきたいと思えます。事務局にお願いしたいことは、今日議論したことを何人かの意見にある程度集約されると思えますので、理念的な部分、具体的なご意見を踏まえて、いくつかにまとめて次の議論の資料にしてもらいたい。全体構想的なことをある程度方向性として、こっちの方向だよねという部分までを次回までにとりまとめておいてほしい。最後にその他ご意見はございますか。

高倉委員

ゾーニングの問題を含めて全体の可否も含めて、全体的な伊賀市の文化、観光、生涯学習、教育の施設をどういう風に配置して、どんなランドデザインを描くか、それを念頭に、次回あたり優先順位を決めて議論され、具体的な絵にしていく必要があると思えますが、その場合、私は図書館、芭蕉翁記念館についてそれぞれの役割を整理しながらどうするか議論されなければならないと思えます。

田山会長

貴重なご意見ありがとうございました。

ランドデザインの考え方を共有すると。いろんな多様性があるから、もうちょっと大きいランドかもしれませんが、あんまり狭いランドデザインではまずいと思えますが、

その考え方が無いと何をやるんだと、文化都市を造るんだと、だからこういう意味で、こういう配置だこうだと説明できるようにしておかなければならないと思いますし、それと、この街のインテリジェンスを上げるということがおそらく背景には大きくあると思います。それから、上田^(功)委員がおっしゃった、観光は観光のところですべきだと、これは私も非常に大事なことだと思います。これはゾーニングとの関係も出てくると思います。一方で、市民無視ではもうありえないし、堀川委員がご指摘の現在まで議論されてきた良いことは踏襲していくべきであるのご発言がありました。それから、公共交通機関のお話、それから皆さんそれぞれ郡部に帰ってこの話ができるでしょうから、そこでお話ができるような状況にはあるべきであるし、郡部の方のみなさんのためにも議論しているということは間違いないことであるし、そのご理解は会を重ねるごとにおいていただきたいと思います。

それでは今日はこれで終わらせていただきます。

会議終了 17:30